

中継輸送推進法案で現場の課題を追及

れいわ新選組・木村英子参議院議員と全国トラック部会が意見交換



参議院

5月12日、参議院国土交通委員会で、れいわ新選組の木村英子議員が、「物流効率化法改正案」に盛り込まれた中継輸送について質問を行い、トラックドライバーの労働環境や健康問題、中小事業者への影響など、現場の実態を踏まえた課題を国にたどしました。

木村議員は、建交労全国トラック部会からの聞き取り

りをもとに、長距離運行を担うドライバーの多くが、パーキングエリアなどで車中泊を余儀なくされ、狭い車内で十分な休息が取れない実態を紹介しました。また、トラック部会実態調査アンケートでは、睡眠・休息場所の67%が「車両内ベッド」であることにも触れ、「ドライバーの健康を守ることが安全輸送の大前提だ」と強調しました。

これに対し、金子国土交通大臣は、中継輸送施設には疲労回復施設を併設することが認定要件になると答弁し、「少なくともトラックの中で休憩する以上に疲労回復できる施設にしていかなければならない」と述べました。

さらに木村議員は、中継輸送によって施設利用料や積み替え作業など新たなコストが発生し、結果として支払われる運賃や賃金が削られるのではないかと不安が現場で広がっていることを指摘しました。また、中継地点での待機時間や荷物の引き継ぎ作業などが、適切に労働時間として扱われるのかという問題も提起し、「経営体力の弱い中小事業者が利用できなければ、現場の労働環境改善にはつながらない」と訴えました。

金子大臣は、中継輸送によるコスト増については荷主への適正転嫁が必要だとした上で、標準的運賃制度や「トラック・物流Gメン」による監視強化を通じて対応していく考えを示しました。

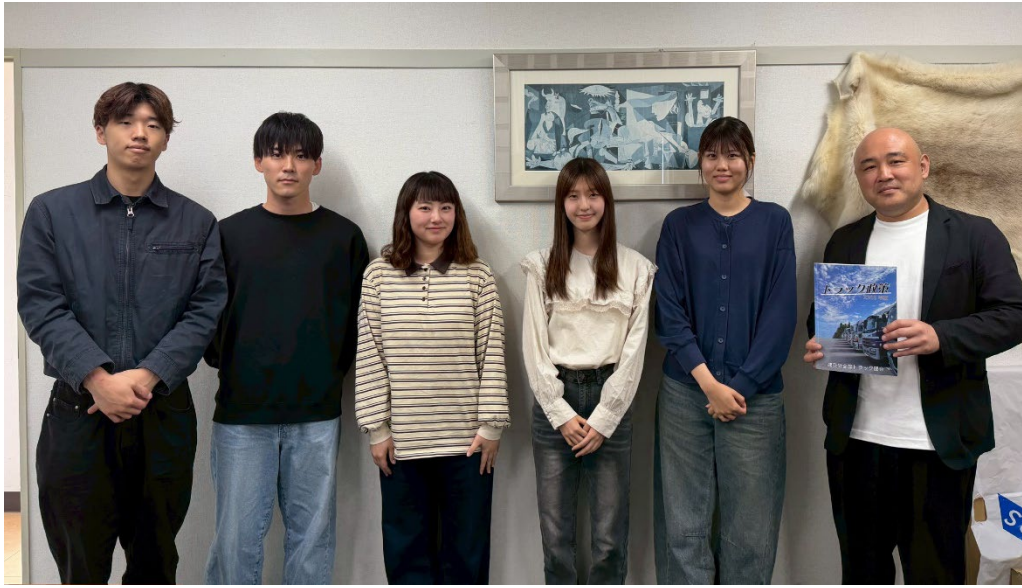
また木村議員は、バス業界には運転距離規制がある一方、トラックには距離規制がない問題にも言及し、「長過ぎる運転距離で身体がしんどい」という現場の声を紹介しました。そのうえで、運転距離規制も含めた実態調査を国として行うよう求めました。これに対し国交省は、今後も業界団体や労働者団体の声を聞きながら、安全確保に取り組むと答弁しました。

木村議員は最後に、「中継輸送を進めるにあたっては、ドライバーの労働負担やコストが増えず、賃金が下がらないよう国の責任で対策を講じるべきだ」と強調し、現場の声を十分反映した制度づくりを求めました。

中央大学生が全国トラック部会をインタビュー

労働組合の視点から物流業界の課題への理解を深める取り組みとして継続実施

5月15日、中央大学経済学部小尾ゼミナール所属の学生5名が、トラックドライバーの労働問題に関する研究の一環として、建交労全国トラック部会に対するインタビュー調査を実施しました。小尾ゼミナールでは「現代日本の労働と生活」をテーマに研究を進めており、11月に行われるプレゼン大会に向けて



て、2024年問題を背景としたトラックドライバーの労働時間規制、賃金体系、人材確保の課題、物流業界の持続可能性などについて学習を深めています。

今回の小尾ゼミナールからのインタビューは、2022年から継続的に実施されているもので、学生たちがトラックドライバーを取り巻く労働環境や物流業界の課題について、現場の実態を踏まえて研究していることは、全国トラック部会にとっても大変貴重な機会となっています。毎回、学生ならではの率直な疑問や問題意識をもとに活発な意見交換がおこなわれており、トラックドライバーを取り巻く現状や課題について、労働組合の視点から理解を深めてもらう場として継続されています。

当日は、事前に示された調査項目をもとに、建交労全国トラック部会の成り立ちや、トラックドライバーを取り巻く労働実態、人手不足の現状、荷待ち問題、賃金体系、2024年問題以降の変化、改善に向けた要請活動などについて説明を行いました。また、インタビュー形式を進めながら、学生から随時質問が出され、現場実態を踏まえた意見交換がおこなわれました。

学生からは、「これまで私たちの班では、2024年問題によって長時間労働が是正された一方、そのしわ寄せがラストワンマイルを担う軽貨物ドライバーに集中しているのではないかと考えていた。しかし、建交労が実施した実態調査アンケートでは、「24年問題以降も労働時間や賃金は変化していない」との回答が多数を占めていることを知り、認識が変わった」などの感想も寄せられました。

さらに、荷待ち時間問題についても、単に予約受付システムを導入するだけでは解決せず、施設外での時間調整待機や路上待機が新たな問題となっている実態について説明し、物流問題を単純化せず、現場実態から考えることの重要性についても交流しました。

最後に、11月のプレゼン大会や今回のインタビュー内容の整理を進める中で、不明点などがあれば引き続き連絡を取り合うことを確認し、インタビューを終了しました。

